

## 国立の大型プラネタリウム建設に関する要請決議

平成25年3月、南ぬ島石垣空港の開港により、八重山圏域への入域観光客数は2年連続で過去最高の記録を更新し、昨年は112万人余が訪れております。平成27年は120万人を目標に掲げ、官民共同で達成に向けて努力する事が宣言されており、持続可能な観光立市石垣市を構築するためには、地の利を生かした取り組みが必要であります。

本市は、北緯24度に位置し、偏西風（ジェット気流）の影響が少なく、亜熱帯海洋性気候で夏の晴天率が高く、88ある星座の内、84の星座が見られ、21個の一等星全てが石垣島の夜空に光り輝いております。

また、本市には国立天文台の電波望遠鏡や大型光学望遠鏡があり、学校教育や生涯教育にも活用され、石垣島天文台には「星空学びの部屋」が併設され、国立天文台が開発した4D2U(4次元デジタル宇宙)の3D映像を使い、石垣島から宇宙までを旅しながら楽しく学習することができます。

日本一の星空がある石垣島に、「星の駅」（仮称）構想として、国立の大型プラネタリウムを建設することは、学術的価値はもちろんのこと教育、研究分野においても重要であると考えられます。天気にも左右されず、昼夜利用できる施設で、八重山の星々と伝承されてきた星の民話や、古謡、舞踊などの星文化を学ぶことは、市民や島を訪れる観光客に星空へ、悠久のロマンにとどまらず、海や自然への関心も高めます。

このためにも、是非、国立の大型プラネタリウムを石垣島に建設していただきますよう要請いたします。

以上、決議する。

平成27年6月22日

石垣市議会

あて先

文部科学大臣、国土交通大臣、地方創生担当大臣、沖縄及び北方対策担当大臣  
沖縄県選出国會議員